

「大山町未来づくり10年プラン」 (総合計画)の策定を開始しました!!

ステップ
「step1」から「step2」へ

本町では、10年に1度、総合計画を策定することになっています。

これは、今後10年間、大山町はどんな町を目指し、実現させるためにはどうするか、さまざまな分野にわたって計画したもので、本町の行政は、この計画に基づいて運営されています。

平成17年3月28日に旧3町が合併して新大山町が誕生しました。本町発展のための「step1」として、平成18年6月に、「大山の恵みを受け継ぎ、元気な未来を拓くまちづくり」を基本理念とした「大山町総合計画」を策定しました。

社会基盤・生活環境の整備、教育、保健・医療・福祉の充実、産業の振興、住民自治の推進など、その成果は多岐に及びます。

こうした成果を土台に、本町のさらなる発展へ向けた「step2」として今年度より、平成28年度から始まる10年間の総合計画の策定に取り組みます。

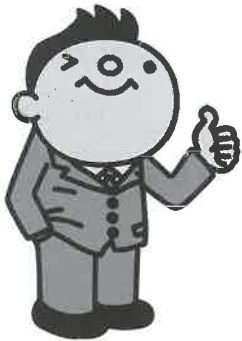
本町初の試み
計画づくりは「人財づくり」

計画の策定には、素案作成の検討段階から、役場職員だけでなく町民の積極的な参加と話し合いを行い、内容を検討します。

具体的には、本町における今後の人口の動向、財政状況を踏まえながら、大山町の未来のために何をすべきかを議論することから始めます。

両者がともに、今後10年の未来図を描きます。未来図は「自分たちの計画」です。その実現に向けて動くことが「計画づくり」は「人財づくり」へと繋がります。

この繋がりは、本町のまちづくりのために立ちあがり活動している団体や組織をさらに発展させます。



5つの手法を駆使

(左ページ参照)

手法① 住民ヒアリング

まちづくりに興味・関心のある人や、その活躍の場所を求めている人を探し出し、どんなまちづくりがしたいと思っているのかを聞くと同時に、計画策定への参加を呼びかけます。

手法② 「素案策定委員会（＝町民会議）」の設置

町民、役場職員で組織を設置し、教育、福祉、産業など分野ごとに分けたチームを作ります。

手法③ 協働先の明確化

作成された素案を提示し、さらに内容を検討することで、自分たちの進めべき事業は、どの部署と協働すればよいかを明確化します。

手法④ 魅力的な計画書のデザイン

計画書を手にとって読んでいただけよう、また、目を通した方が「まちづくりを実践したい」と思うデザインにします。

手法⑤ 職員の意識改革

策定された計画を実行するには、役場職員の有している能力を最大限引き出すことが不可欠です。そのため、自由な発想で、今後10年の行政はどうあるべきかを常に考え仕事ができる職員を、この過程を通じて育成します。

スタジオオエル
Studio-OEL
ノウハウを活用

5つの手法で総合計画を策定するにあたり、「株式会社Studio-OEL」のノウハウを活用します。

同社は、地域の課題解決や未来づくりを地域に住む人たちが実践するためのコミュニケーション・デザイン、「人と人とながらる仕組みづくり」に携わっています。その手法についての専門的な知識、技術、経験を有しており、その実績は全国で高く評価されています。

同社の設立者で、コミュニケーション・デザイナー・山崎亮氏の活動は、日本全国で注目され、テレビ番組「NHKクロースアップ現代」や「情熱大陸」でも大きく取り上げられています。

著書『コミュニケーション・デザイン』『まちの幸福論』『コミュニケーション・デザインの時代』など、多数執筆されています。